

「勝利者」

～人に勝つ人生から自分に勝つ人生へ～

マルコ2：3～5、ローマ5：1～8

「実を残す2017年に」

今年のテーマとしてヨハネ15章の御言葉が与えられています。ここは「主はぶどうの木であり、私たちは枝である」という箇所を読んだことがある人も多いかと思いますが、「あなたがたがわたしを選んだではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたにお与えになるためです。(ヨハネ15：16)」新しく始まった2017年が良い実を残すことができるように歩んでいきましょう。そのため、私たちは互いに愛し合う必要があります。たとえ周りから自分にとって悪いことをされたとしても、悪で報いるようなことをしては良い実にはなりません。悪に対して良い実を刈り取れるように行動していかなければなりません。

勝利者(小坂忠師)

「勝利者」という賛美を聞いたことがありますか？この曲はロサンゼルスオリンピックにおいて、女性のマラソンランナーが脱水症状と戦い、ふらふらになりながら、最後まで走りきりました。その時の様子から生まれた曲です。小坂忠師は音楽界で活躍している人でした。しかし、そのバンドを解散することになりました。彼はその原因を周りにあると思ってきました。そしてその思いの中にいた時、だんだんと敗北感を感じるようになっていきました。その後、2歳になる娘さんが熱湯を被り、体の60%のやけどを負うことになり、しかし義理の祖母がクリスチャンで、熱心に祈っていました。その祈りによって神様は奇跡が起こり、娘さんの皮膚は手術前よりもきれいになりました。そのような中で彼はイエス様と出会って、自分が間違っていることに気づき、イエス様を受け入れていきました。その後この歌が生まれました。

4人の信仰によって

(マルコ2：3～5) この箇所は病いで歩けない人を4人の人が担いでイエス様の元へ連れていったお話しです。5節に注目してみましょう。「イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。(マルコ2：5)」ここに「彼らの信仰」と記してあります。これは病いの人を連れて行った4人の信仰を見たということです。この当時、病いになるというのは罪を犯し神に罰せられた故になったという価値観でした。ですから病人は人として数えられることもない存在でした。そのような状況であっても4人はその人をイエス様の元へ連れていくのです。イエス様は多くの人々に囲まれていたので、容易には近づくことができませんでした。そこで彼らは屋根に上り、その屋根を取りはずし、病いの人をおろしました。イエス様は彼らの心と信仰を見て癒しを行いました。このように私たちは目の前に置かれている人を見て、周りに流されることなく、良い実を残す行動をとっていくことが大切ですよ。

私たちに与えられたものは？

この病いを癒された後も、イエス様の歩みは周りの人を愛し、正しい道を歩めるように、教え、戒め、そして自ら十字架への道を歩まれました。イエス様は弱い人を助け、守るために、自分が犠牲となる道を選びました。当時の人々は十字架をみて成功した人の歩みではないと思っていたかもしれません。かえって敗北者であると決め付けていたかもしれません。しかしそれこそが、愛の実を残す究極的な

道でした。この犠牲に伴う歩みを私たちに残しました。(ローマ5：1～8) 私たちが例え悪いことをされたとしても悪で返していたのでは良い実を結ぶことはできません。私たちは周りの人を変えようと様々なことをしますが、イエス様は自分が犠牲となる道によって周りの人々が変わられる人生を歩みました。これは私たちに継承していった信仰の先人たちもこの歩みを実践した人たちでした。新島襄、新渡戸稲造、石井十次・・・あげればきりがありません。

自分に勝つ源は愛！！

私たちの歩みの土台は何でしょうか。それはイエス様の愛です。すなわち命がけの愛です。この愛を土台としていれば、たとえ何があったとしても我慢でなく、忍耐することができます。私たちの心が常にイエス様の愛にあふれ、自分に勝つ決断ができれば、良い実を残していくことができるようになります。「北風と太陽」のお話しでも北風では人は変えることができないのは知っています。太陽に喩えられているように暖かく包み込むような愛によって人が変えられていくのです。私たちが周りと比較し、劣等感、孤独感などを持ってまますと、悪い実を残してしまう人の歩みになってしまいます。自分が変わろうとする姿、愛そうとする姿を通して伝わります。

蒔かれたものを刈り取り、誰かのために蒔いていく

聖書にも出てくるいなご豆というものがあります。これは収穫をするまで70年の歳月がかかるものです。ですから今、植えたものは70年後にようやく収穫することができるのです。現在食べているいなご豆は70年前に先人が植えて下さったのです。ですから植えた人と収穫する人は違っているかもしれません。長寿な人は食べられる可能性があります・・・一般的には孫の世代のために蒔いているサイクルになります。このことから①私が蒔いていない実を刈り取っていること、それが刈り入れ時であることなのです。②私が蒔かないと実が絶えてしまうということなのです。私たちがどのような行動をとるのかによって良い実を蒔くことなのか、悪い実を蒔くことなのかは決まります。私たちの次の世代、次の次の世代に良い実を結ばせられる種を蒔き続けていくのです。それが私たちが今することなのです。決して絶やしてはいけません。

最後に

「あなたがたは、次の聖書のことばを読んだことがないのですか。『家を建てる者たちの見捨てた石、それが礎の石になった。』(マルコ12:10)」私たちの土台を確認しましょう。心が頑なになっていないでしょうか。それとも愛によって満たされているでしょうか。私たちは自分に戦い続け、忍耐し続け、怒らない、責任転嫁しない、人を変えようとしめない・・・と決断しましょう。私たちはイエス様の犠牲の愛の中に存在しています。ですから「真の勝利者」となるために2017年最初の礼拝で「今年は自分が変わる」と決断して歩いていきましょう。

(要約者:平澤 一浩)

(1月1日)